

幼 兒 の 教 育

昭 和 七 年 二 月

春 待 ち 日 記

迎へるよりも、況して追ふよりも、樂しきは待つ心である。

今こそは春を待つ日。

待つ心には、忍びよる軽い足音も、それなき微かなけはひも、目よりも耳よりも先づ胸に知らるゝ。

春はもうそこへ。

君の小さき手帳に、近づく日々の春をノートし給へ。——風やわらか。水ぬるむ。土のうるほひ。木の芽のふくらみ。子ぎもの肌。女の子の髪のつや。すえいたあの明るい色。輕き細あみ。

やがて花。花。花。待ちければこそ親しき春